

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	アプリケーションと連動したデータベース言語学習支援システムの開発				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・助教	氏名	相良 陸成
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・助教	氏名	相良 陸成

講演題目
アプリケーションと連動したデータベース言語学習支援システムの開発
研究の目的、成果及び今後の展望
1. 研究目的 本研究の目的は、データベース言語を用いたデータ操作が、身近なアプリケーションの中でどのように利用されているかを、学生が直感的に理解できる教育環境を構築することである。データベース教育においては、実習などを通じて検索や挿入といった基本的な操作方法を学ぶことが多い。一方で、学習の初期段階ではアプリケーションとの関わりを意識する機会が少なく、操作と実社会での利用との結びつきが見えにくい。このことが、学習意欲の低下を招く一因となると考えられる。 そこで本研究では、実際に動作するアプリケーションとその背後で行われるデータベース操作の関係を、学生が体験的に理解できる環境を整備することを目指した。 2. 成果 学生にとって身近な存在であるSNSの仕組みを題材に、独自のアプリケーションを開発した。このアプリケーションには、プロフィール編集、メッセージ投稿、他のユーザーのフォロー、タイムライン表示などの機能を実装している。学生はこのアプリケーションを操作しながら、その背後にあるデータベースを観察・操作できるため、アプリケーションとデータベースの関係性を体験的に学ぶことができる。 このシステムは、経営情報学部の講義「データベース」および経営情報イノベーション研究科の講義「データ工学特論」で活用された。特に「データベース」講義終了後のアンケートから、本システムが学生の理解促進に一定の効果をもたらしていることが示唆された。 3. 今後の展望 本システムは、データベース言語とアプリケーションのつながりを体験的に学ぶという点で有効であったが、一方で、講義中に多くの学生から寄せられる質問に対して、教員が十分に対応しきれないという課題も浮かび上がった。この点を改善するため、今後はデータベース言語に関する質問に自動的に応答できるチャットボットの導入を検討している。講義中における個別支援の補完手段としてチャットボットを活用することで、学生の理解をより深める支援環境の充実を図る。